

平成30年度 高校生公開討論会

〈特色〉

この取組は、本校が SGH の指定を受ける際に提携関係を結んだ関西学院大学から、平成27年度に本校生徒の参加について要請があったことに端を発する。当初は普通科に所属する生徒の中から参加者を募っていたが、現在では1年生を中心に構成された有志のメンバーが参加している。毎年、現代の世界で起きている諸問題（移民、エネルギー、国家間の経済連携など）に関するテーマが与えられ、それについて招待校の生徒たちが探究活動を行いながら自分たちの意見をまとめ発表する。さらにこの会に参加した SGH 関係他校の生徒たちと討論する時間も設定されている。

当該年度の取組を始めた時から、生徒たちは発表当日に向けて準備のスケジュールを立てることが求められる。特に1年生にとっては、発表の準備やそのための討議なども含めた一連の協働的な取組が、次年度において行う課題研究の練習になるという意義がある。高校生公開討論会を本校 SGH の取組の中で「課題研究基礎」のひとつとして位置づけたのは上記の理由による。

また、取組を経験しコミュニケーション力とモチベーションを一層高めた参加者の中には、さらにグローバル・リーダー育成に関する公益性の高い大会等にチャレンジする生徒が出てきている。

なお、この取組に参加する生徒の指導・支援は、本校の初任期(初任者と2年めの教員)教員と経験ある教員がパートナーとなって行っている。この取組は、意欲の高い生徒たちとともに探究活動に関わることを通じて、初任期教員の指導力向上をはかるという本校における OJT の一環としても位置づけられている。

以下は、今年度高校生公開討論会の取組に参加した初任期教員による報告である。

〈対象〉

1年生12名、2年生1名

〈実施日〉

平成31年1月26日（土）

〈内容〉

（1）本年度の概要

1月26日（土）、関西学院大学にて、高校生公開討論会が行われた。討論会は二部構成で、午前は、医師の葉田甲太氏による基調講演、午後は、参加4校（兵庫県立長田高等学校・関西学院高等部・関西学院千里国際部・本校）による発表と討論である。本年度のテーマは、「グローバル化する世界で生きていく君に問うー私たちは何を学ばなければならないのかー」であった。このテーマで実りある討論を行うため、参加校は、以下の事前課題について調査と発表の準備をすすめ、当日に臨んだ。

① 史上の事例2例をもとに過去のグローバル人材の功罪を分析する。

…（本校の扱った事例）インドネシアの植民地問題、イラク戦争

② ①を踏まえて、これからのグローバル人材が身につけるべき事柄を考える。

(2) 当日までの様子

討論会への参加を希望した生徒は、10月から準備を開始した。大きな流れは、「事前講義の聴講→事例選定→事例の調査・分析→発表内容の精査→発表練習」である。

関西学院大学の關谷武司教授による事前講義では、「グローバル人材とは何か」という大きな問いが投げかけられた。この問いへの答えを考える材料として、生徒は、日本と関わりの深い2つの事例（インドネシアの植民地問題・イラク戦争）を選んだ。そして、インドネシア班とイラク班に分かれ、各班で、歴史的事実の調査と過去のグローバル人材の分析を行った。その後、調査・分析の結果を全体で共有して一つの発表内容に仕上げ、発表・質疑応答の練習を行った。

(3) 当日の様子

午前の基調講演では、医師の葉田甲太氏（NPOあおぞら代表）が、「僕の人生と世界の新生児死亡について」と題して、ご自身の進路選択や生き方に関するお話を交えながら、世界の医療の現状と問題についての講話をされた。午後は、各校による15分程度の発表の後、「グローバル化する世界を生きていく私たちは、何をどのように学ぶべきか」というテーマで、80分にわたり討論が行われた。

〈成果〉

参加生徒は、「各個人の調査→調査結果の共有→新たな課題の発見」というサイクルを繰り返し、自分達で知識を積み上げながら、「グローバル化する世界を生きる私たちが学ぶべきことは何か」という「正解」のない問いについて、協働して探究していた。

自分達で司会進行を行うミーティングを重ねる中で、「班内でこんな役割分担をしたらもっと効率がよくなるのでは?」「お互い気持ちよく意見を出し合うために、次はこんな言い方をしてみよう」「発表内容に関連するイベントを自分で見つけて、時間をつくって足を運び、得た情報を皆と共有しよう」「逆算して次回までにすることを決めておこう」「発表練習にクラスメイトを招いて、初見の人が抱く率直な意見を言ってもらおう」等、様々に知恵を絞り、探究活動の質を高めるためのアイディアを実践に移していた。

当日の討論では、「枝葉の議論に時間を費やしたことがあった」「歴史的な知識に関する質疑よりも、自分達で答えを考え出すことができるような問いを投げかける方が、議論が盛り上がった」というミーティングの反省や振り返りを活かして、限りある時間の中で本題についての議論を深めることができるように、全体が小さなやりとりに終始しそうなときには軌道修正をするという、頼もしく成長した姿も見せてくれた。

また、「学ぶべきこと」の一つとして自分達で考えた「相手をよく理解し、ニーズに応えること」の厳しさと真剣に向き合っていたからこそ、基調講演者に対して「私達がよいと考える現代の最先端の医療技術と、現地で大切に守られてきた伝統や風習がぶつかってしまった場合は、どうされるのですか?」という鋭い質問をする生徒の姿が見られたと思う。

さらには、討論会終了後すぐに、「根拠とあわせて他者の意見をしっかりと聞き、また

自分の意見をわかりやすく伝えて充実した議論をするには、全体で討論を行うよりも、グループに分かれた方がよかったのではないか」「せっかくの機会だったので、もっと他校の生徒と深く語り合いたかった」等と、自分達なりに早速振り返りを行って、次の機会に向けての改善点を考えていた。参加生徒がこの経験を今後に活かしてくれることを願っている。



以下は、討論会後に行った生徒アンケートからの抜粋である。

- ・自分とは異なる視点を知ることができた一方で、自分とまったく同じ意見を持つ人はいないことを実感し、自分を大切にしようと思えた。とても良い経験になった。
- ・ミーティングや討論で話し合った内容そのものよりも、練習・発表・討論で乗り越えた苦労が良い経験になると思った。グループで時間をかけて一つのものを完成させるというこの経験を、来年度の課題研究に活かしたい。
- ・個々人が知っていることや調べたことを合わせて、一つのものをつくるという経験ができてよかった。
- ・「自分達で調べる」「自分達で考える」「自分達の言葉にする」という貴重な経験ができた。一人ではわからないことに沢山気づかされ、メンバーに支えてもらって、成長できたと思う。
- ・今まで見過ごしていた事柄に目を向ける機会になった。視野が広がり、さまざまな視点から問題を見ることができるようになった。とてもよい刺激になった。
- ・自分が気にもとめていなかったことまで視野に入れている人や、知識が豊富な人と接する中で、広い視野を持つこと・考える癖を持つこと・正しい知識を得ることの大切さを学んだ。
- ・当日までに、メンバーで何度も放課後のミーティングを行ったが、家に帰って一人で勉強するだけではわからないことを学ぶことができた。貴重な経験だった。
- ・多くの人と話す中で、さまざまな考え方があることを知った。また、一つのことについて深く調べ考える力がついたと思う。
- ・自分と違う意見を持つ人を受け入れることは、自分が思っている以上に難しいことがわかった。自分の思いを押しつけるのではなく、一歩引くことも大切だと知った。
- ・自分達が分かる発表と、相手によく伝わる発表は違うと実感した。これからは、人にものを伝えるときに、わかりやすく伝えることを意識したい。
- ・「考えたことをわかりやすく発表する」ということに苦手意識があったので参加した。メンバーと話し合いを重ねる中で、だんだんとそれを克服することができた。
- ・こんなふうに長い時間をかけて深く議論をするという経験がなかったので、こういう機会があったこと自体がよかった。真剣に考えれば考えるほど、安易な答えは出せなくなるテーマだったが、とても有意義な時間だった。
- ・発表の中で、「これからの世界を生きる私達が学ぶべきこと」として自分達が掲げた「相手のニーズに応えること」を、自分の生活の中で、小さなことでもよいので実践したい。